

いのちの授業【社会科】学習指導案

指導者 S

1. 本時の指導

(1) 単元 第2次世界大戦前の国際情勢と日本

(2) 目標 ①WWⅡ前後の国際情勢と日本が進もうとしている方向性について理解することができる。(社会科)

②日本国の方針とは違う判断を下した一人の外交官が、なぜそうせざるを得なかったのかを考える。

(いのちの授業)

(3) 指導過程

	学習活動	主な発問(○)と指示(△)	指導上の留意点(・)と評価(☆)
導入	WWⅡ前後のヨーロッパの様子をビデオを通して理解する。	○WWⅡ前後のナチスドイツについてどんなことを知っていますか。 △では、当時の様子を撮影したビデオがありますので、見て下さい。	・ビデオを見るための動機付けなので簡単に入る。 ・ナチスがやったユダヤ人の大虐殺について焦点を当てる。
展開	当時の国際情勢と日本の立場を理解する	○1929年の世界恐慌は、世界の歴史にどのような影響を及ぼしたのだろうか。 ○なぜ、ユダヤ人は日本のビザが必要だったのだろうか。 ○日本の外務省は、なぜ、杉原氏のビザの発給許可を却下したのだろうか。 △資料をもとに、グループで考えてみよう。	・世界恐慌からの歴史の流れを主にドイツ、イタリア、日本に焦点を当てて確認する。 ・「ビザ」とは、どんなものなのかも併せて理解させる。 ・当時の日本とドイツの関係を日独伊三国軍事同盟に至るまでの経過から確認する。 ☆WWⅡに至までの経過を系統的に理解することができたかを話し合いで評価する。
まとめ	杉原千畝さんの決断までにどんな葛藤があったのかを知る。	○何日も眠れないほど杉原氏は葛藤しましたが、どんなことで葛藤したのだろうか。	・外務省からの通達絶対であり、どんな個人的感情よりも優先するが、ビザを発給しなければユダヤ人がナチスに殺されることになるということで葛藤したことをとらえられるように巡視しながらアドバイスをを行う。

いのちのまとめ	杉原千畝氏の決断について自分の考えをまとめる。	○あなたは、杉原さんの決断をどう思いますか。	・その後の杉原氏の人生にふれ、日本では認められなかったが、世界では多くの賞賛を受けたことを知らせたい。 ・あえて今日が語らず、生徒の個人の感情にまとめをゆだねる。 ☆命の重さについて何にも代え難いという想いを持ったかどうかを感じて評価する。
---------	-------------------------	------------------------	---